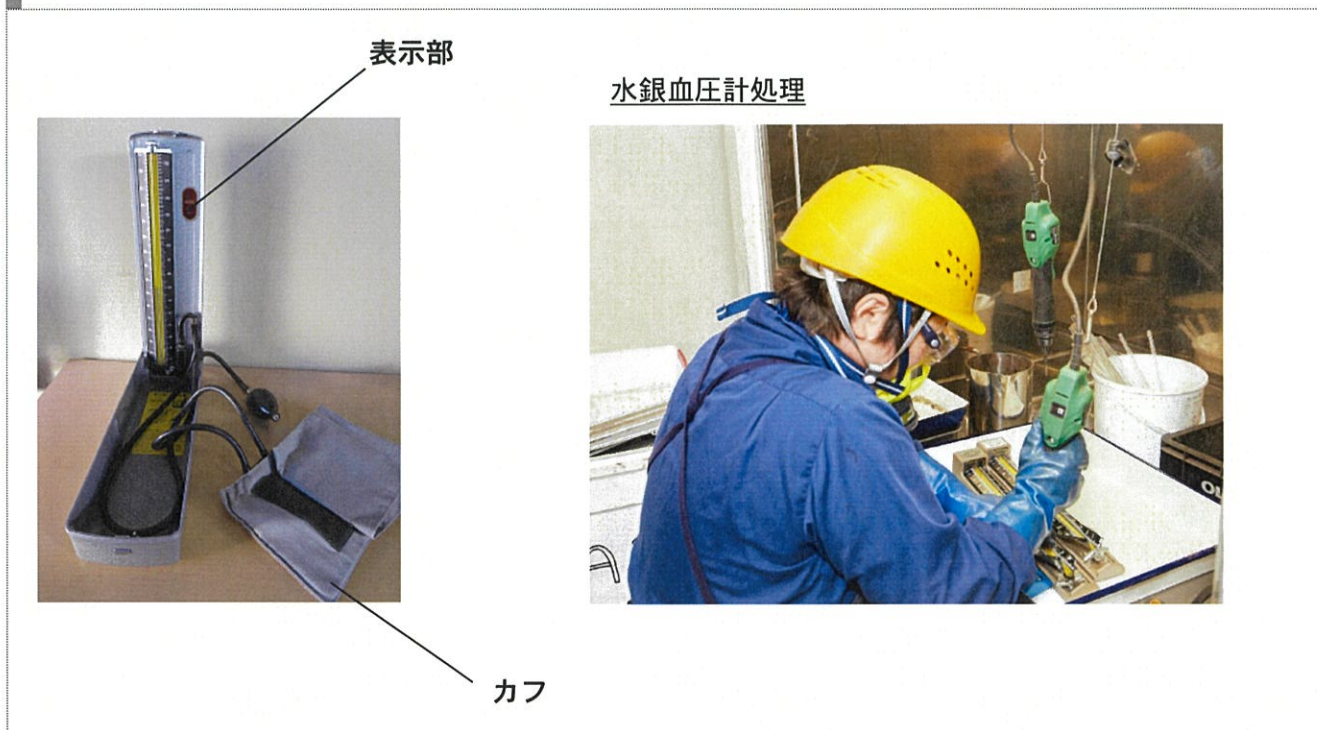


水銀血圧計



左 入荷された水銀血圧計 右 イトム力鉱業所での血圧計解体

水 銀血圧計は1896年にイタリアのScipione Riva Rocciが血圧測定法とともに初めて考案したとされる。1905年ロシア軍医のニコライ・コロトコフが、日露戦争従軍中に聴診器を使用して血圧を測定した。この時初めて最高血圧と最低血圧が認識され、2種類の血圧値が測定された。水銀血圧計での測定の胆であるコロトコフ音の発見であった。

一般的に使用されている水銀血圧計の構造は、血圧を感知するカフ（腕に巻きつけるベルトマンシェットともいう）及び表示部からなる。

圧力の国際単位はPaとされているが、水銀血圧計を使用してきた歴史的経緯から血圧は、国際単位系の例外としてmmHgで表されている。

水銀血圧計1台に使用されている水銀は3.5 mlで

重量に換算すると約50gとなる。

100年以上活躍してきた水銀血圧計も現在では電子式が普及するにつれて、生産量が減少している。2002年には国内で約93,000台の血圧計が製造されていたが近年では約13,000台の生産量となっている。

水銀血圧計は水銀使用製品産業廃棄物に指定されており2020年末に、製造が禁止される。

ちなみに、実際に行われている、イトム力鉱業所の水銀血圧計解体を上図右のようにおこなっている。

出典（生産量）：薬事工業生産動態統計年報（厚生労働省）